

チャイルド・ファンド・ジャパンだよ

[スマイルズ] 2009年4月NO.15

SMILES

<http://www.childfund.or.jp>

国税庁長官より認定されました



シリーズ“食べる” 4

チャイルドたちのクリスマス会。ご馳走を前にみんな笑顔があふれます。
メニューは左上からフト（お米の蒸しパン）、ルンピア（揚げ春巻き）、サンドイッチ。
手前はマハブランカ（ココナツミルクととうもろこしのプディング）、
パンシット（焼きビーフン）。チャイルドの家庭でも誕生日やクリスマスなど
特別な日に作られるご馳走が並びました。

写真：センター51（ミンダナオ島ディボログ）

ChildFund
Japan

チャイルド・ファンド・ジャパンは、1975年より、
アジアを中心に貧困の中で暮らす子どもの健やかな成長、
家族と地域の自立を目指した活動をしています。

特集 ミンダナオ島

～平和を求める豊かで貧しい島～

愛と奉仕の心により



特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン
理事長 深町 正信 (青山学院名誉院長)

主なる神様の豊かなお恵みが、
新しい年度も皆様お一人おひとりと共にあるよう
心からお祈り申し上げます。

皆様には、すでにお知らせいたしましたが、チャイルド・ファンド・ジャパンは、2009年4月1日をもって、国税庁長官より「認定NPO法人」として認定されました。現在、全国36,000団体以上あるNPOのうち、認定されたNPO法人は100団体にも達していません。これまでの皆様のご支援なしには、認定を得ることができませんでした。皆様の暖かいご理解とご尽力、ご支援に改めて深く感謝申し上げます。

さて、日本も含めて世界は、今、大きな混乱に直面し、歴史的転換をせまられています。サブプライムローンの破綻に端を発した米国発の経済不況は、瞬く間に世界経済を大混乱に陥れ、日本でも多くの非正規雇用の方々が職や住まいを失うという事態が起っています。昨年末に始まったガザ地区におけるパレスチナとイスラエルの武力衝突は、激しい戦闘に発展しました。地上での戦闘では、子どもや女性を含む多くの民間人の犠牲が出ました。

私たちは、常に人間の本質に立ち返る必要があると思います。イエス・キリストが、「あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕えるものになり、いちばん上になりたい者は、皆の僕となりなさい」と言われたように、全ての国において一人ひとりが、今こそ、愛の心に立ち返り、お互いに仕える者となることが求められています。

チャイルド・ファンド・ジャパンは、今年も愛によって仕える心を大切にして、世界の子どもたちへの支援活動の充実に励んで参ります。皆様には、引き続き暖かいご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

* ハロハロとはタガログ語(フィリピン語)で“いろいろ”“まぜこぜ”という意味です。
このページは読者の皆様からのリクエストや投稿などをもとに作るページです。

ハロハロのページ

観て、感じた！ チャイルドの生活

2008年、チャイルド・ファンド・ジャパンはイベントや報告会などを通して支援者の方々との交流に力を入れました。11月7日と8日には、東京事務所で3年ぶりにオープンハウスを開催しました。支援者の方々同士や職員と交流しながら活動をより身近に感じていただくこの会に、計27名がご来場くださいました。当日のプログラムをご紹介します。

試食 (チャイルドの食事)

ご飯にいわしの缶詰(写真)をかけたシンプルなもの。実際のチャイルドたちの家庭では1缶を家族全員で分け合っています。スプーンとフォークを使って、混ぜながら食べるのがフィリピン流。参加者からは「美味しい!」「ご飯にあうね!」との声も多数。



体験コーナー (町の生活、子どもたちの手伝い)

バス停もない、料金箱もないジープニー(もともとはジープを改良した乗合バス)は、どうやって利用するの? 「運転手に自分が降りたい場所で声をかけたり、料金やおつりを乗客がリレーするんですよ。」スタッフの説明を受けながら、チャイルドの日常生活を疑似体験。この他、4リットル入りのペットボトルを使った水汲み体験、少数民族チボリ族手作りのコースターやマットの紹介など、フィリピンに思いを馳せる時となりました。今回ご参加いただけなかった方、次の機会にお会いできるのを楽しみにしています!

チャイルドの生活を紹介した DVD (16分) 上映

「映像を観て、『チャイルドたちの成長記録や手紙に書かれていることは、こういうことなんだ!』と分かった」、「チャイルドたちの質素な暮らしは今の日本では想像できないが、懸命にがんばっている様子が心に残った」などの感想をいただきました。

※DVDをご希望の方はインフォメーションコーナー(8ページ)をご覧ください。



4人分のシートに7人が譲り合い詰めあって座り、ジープニー体験をしました。
左端は運転手役のスタッフ

抵抗の歴史

16世紀半ばのスペインによるフィリピン植民地化の以前から、先住民のイスラム化が進んでいたミンダナオ地域には、独自の文化や慣習が育まれていました。植民地政策の一貫としてキリスト教化が進められましたが、イスラム教徒はこれに激しく抵抗し続けました。しかし、政府は先住民の先祖伝来の土地を、所有者のない土地として入植者へ売却。先住民及びイスラム教徒は生活の場を失い、ミンダナオ島でも少数民族となってしまいました。

第二次世界大戦後に両者の対立が激化します。本格的に分離独立をとなえるイスラム教徒に対して、フィリピン中央政府は戒厳令を出して独立運動を非合法化、激しく武力弾圧をしました。これに対して独立派は武装勢力化し、闘争は泥沼化。この内戦による死者は数万人に達すると言われ、今も解決の道筋は見えていません。

紛争と貧困

長年続いた紛争によって経済・社会インフラが脆弱なミンダナオ島。また、反政府の拠点だったために、フィリピン政府からの物資や資金投入、外国からの開発援助も届きにくく、フィリピンの中で最も貧しい地域となってしまいました。紛争で一番苦しんでいるのは人びとであり子どもたちです。日常化する避難、避難先から戻ると目にする破壊された病院・学校・モスク。多くの子どもの命が失われ、今なお紛争のトラウマに苦しんだり、貧しさのために教育も満足に受けられず、少年兵となり武装グループに入る子どももいます。

紛争が貧困を生み、貧困が紛争を生む、この負の連鎖を断ち切るためにも、平和への取り組み、そして将来を担う子どもへの支援が欠かせないと私たちは支援活動を続けています。

参考文献：『海域イスラム社会の歴史』（岩波書店）、『現代フィリピンを知るための60章』（明石書店）



平和への取り組み

ファミリーデー ～“家族”として、平和の中でともに暮らす～

ヴァージニア・マナロさん（センター34センター長）

Manalo



11回目を迎えるファミリーデー*1が、2008年12月に地域の小学校で開催されました。これは毎年この時期に行われ、バジャオ族やマギンダナオ族などイスラム教を信じる5つの少数民族のチャイルドたちと家族、キリスト教を信じるチャイルドたちや家族が参加します。朝8時からのパレードで幕を明けたイベントは、平和と統一を求めのお祈りで最高潮に達しました。このお祈りは、イスラム教の聖職者とキリスト教の聖職者が共にコーランと聖書を掲げて行いました。続いて、異なる民族や文化を表した色とりどりの風船がひとつに結ばれて空に放たれ、次に不安定な世界経済やミンダナオ情勢の中で新たな生き方を象徴するたいまつが奉げられました。締めくくりは、チャイルドたちの合唱です。キリスト教徒のチャイルドたちもイスラム教徒のチャイルドたちと一緒に歌い、平和を願いました。お昼ご飯は、クリスラム・ペアレンツ・オーガニゼーション*2のメンバーが腕によりをかけて用意してくれたご馳走をみんなで食べました。

午後は、参加者たちがゲームやスポーツで楽しい時間を過ごしました。いつしか会場は、村で生活を共にする3,000人の村人たちで埋まり、共に夕方まで楽しみました。その中には、イスラム教徒の村長やキリスト教徒の町長の顔もあります。

ファミリーデーが開始された11年前は、同じ村で生活していても、民族や宗教が違うためお互いに交わることを避けていた人びとでしたが、時を経て、チャイルドたちや家族のみならず村人も楽しみにする地域最大のイベントに成長しました。このイベントが、村で一緒に暮らす人びとの絆を一層強いものにしたのです。

*1: 支援センターの多くで行われているイベント。「地域との交流」、「家族の絆を深める」、「ご支援くださるスポンサーに感謝する」、「平和構築」など、地域の事情に応じてその目的は異なる。
*2: チャイルドの親たちが参加する住民組織。クリスラムは、キリスト教徒を意味するクリスチャンとイスラム教徒を意味するイスラムという言葉を組み合わせた造語。



平和と結束を象徴するひとつの大きな輪になる参加者たち



イスラム教とキリスト教の聖職者がともに平和を祈る



平和を願いながら歌うチャイルドたち（右側はキリスト教徒の子どもたち、左側はイスラム教徒の子どもたち）

ミンダナオ島

～平和を求める豊かで貧しい島～

貧困削減への取り組み

ゴミの中で未来を見つめる

支援するセンター^{★1}があります。このセンターは2年前に活動を開始した一番新しいセンターで、これまではチャイルドたちへの支援プログラムが中心でした。これからは、親たちのグループ化や収入向上のための技術訓練、協同組合作用を目指していきます。このセンターへ、募金グループの伊藤久平が訪問しました。

ゴミ拾いとは？



センターの活動している地域の人々の多くは農業労働者として働いていますが、村にあるディポログ市のゴミ捨て場^{*2}で換金できるものを拾って生活している人々もいます。パルディアンさん一家もその中の1家族です。次女マニレン、ハイスクール2年生がチャイルドとして支援を受けています。

広いゴミ捨て場(7ヘクタール)には、多量のゴミが捨てられ、熱帯の直射日光にさらされたゴミから腐敗臭が立ち上り、ゴミを踏みつけると夥しい数のハエが羽音と共に煙のように舞いあがります。そんな中で、子どもたちや人々がゴミを鉤のついた棒でひっくり返してプラスチックや金属^{*3}を拾っています。試しに私もゴミ拾いをしてみましたが、換金できるものはなかなか見つからず、炎天下の中腰での仕事は大変辛く、腰が痛くなりました。



ゴミ捨て場。汚水による環境への影響が心配される。

地域にはこんなに美しいヤシ畑がある。



マニレンの生活

マニレンのお父さんは、3年前持病の肝炎がもとで亡くなり、それからはお母さんのリリオーサさんがゴミ拾いをしていますが、わずかな収入しかありません。一家5人は、一間の小さな家で暮らしています。電気はなく、生活用水は急勾配の深い谷を降りて、泉に汲みに行きます。「その日食べるお米をかうお金がないときは、教会の人や近所の人にお米を借りにいきます」とお母さんは言います。マニレンも水汲みや炊飯など、家事を手伝う他、学校が早く終わった日や、週末には、長靴をはいてゴミ拾いを手伝っています。マニレンの家を訪問した日の夜ご飯は、ご飯に菜っ葉と小さなインスタントラーメンと一緒に煮込んだものだけでした。小さな妹が、ラーメンだけをお腹いっぱい食べたいと泣いていたのが印象的でした。



水汲みをするマニレン。片手に40個のタンクを持って。



家の壁の一部は広告の横断幕を使用。

自宅前で。マニレンとお母さん、妹たち。



夕食、イスがないのでお母さんとマニレンは立って食べる。後ろは薪で調理する台所。



おかずの材料(菜っ葉とインスタントラーメン)

*1: リホック・パタ(子どものための行動の意味)デベロップメント・センター。

*2: 日に数回、ゴミを満載したダンプトラックがゴミを捨てに来る。

*3: プラスチック 16 円、鉄 12 円、アルミ缶 60 円、銅 140 円、いずれも 1 キロ当たりで仲買人が買い取る。

ミンダナオ島は、肥沃な土地でバナナやマンゴー、パイナップルなどの生産が盛んに行われ、日本のスーパーマーケットで目にするフィリピンの果物のほとんどがミンダナオ産です。また、戦前は多くの日本人移民が入植しました。台風の上陸も少なく、豊富な地下資源があると言われ、本来は豊かなはずですが、実際は平和が脅かされ、フィリピンで最も貧しい地域です。今号では、ミンダナオ島で行われる平和と貧困軽減の取り組みを特集します。

貧困から抜け出すために

マニレンがチャイルドになったことを、お母さんは本当に感謝しています。公立のため学校の授業料は不要です。しかし、PTA 会費、制服費、学用品代、実習の材料費などは親の負担で、お母さんの収入ではとても払えませんでした。その費用はセンターの教育プログラムによって支援されています。また、マニレンが腸チフスにかかって入院したときは、センターは薬代を支援しました。元気になった今でも軽～中度の栄養不良で、センターの補食サービスに参加しています。

センターは、家庭の経済状況を改善させるため、この地域ではどんな収入向上プログラムが良いか現在調査しています。また、自立を目指し、今後5年かけて協同組合を設立する計画をしています。組合の原資*4 を蓄えるため、親たちは貯蓄を始めました。まだ、歩みはじめて間もないセンターですが、将来に目を向けて地道な取り組みをすすめています。

*4: 1世帯の貯蓄目標は約5,000円。



センターで行なわれている補習クラスに参加するマニレン。理科が得意なチャイルドが他のチャイルドに教えている。



センターのクリスマス会で踊るマニレン。



クリスマス会のゲームでお母さんたちも大はしゃぎ。



どんなに貧しくても 未来に夢を ～マニレンから～

スポンサーのイケダさん、こんにちは。マニレンです。いつも私をご支援くださり、ありがとうございます。

また、クリスマスカードをありがとうございます。勉強は、英語が好きです。数学はちょっと苦手です。お母さんはお父さんが亡くなってから、一人で私たちを育ててくれています。お母さんは歌が上手で、ゴミ拾いでどんなに疲れた時でも歌っています。

私の夢? 調理師になりたいと思っています。美味しい料理をたくさん作って、お母さんや家族に食べてもらうのが夢なんです。だから夢を実現させるためにも一生懸命勉強しないとね。

イケダさんがいつもお元気で過ごせますようお祈りしています。

取材後記

私が訪問したとき、ちょうどセンターのクリスマス会が開かれました。チャイルドたち、そして親たちが大勢集まり、皆でゲームして、そして共に食事をして、子どもも大人も楽しんでいました。普段はゴミを拾っているお母さんも、この日ばかりは、生活の苦しさを忘れたように大きな声で笑っています。子どもたちも負けじと大声をあげてゲームを声援しています。貧しい中にあっても、楽しいことを皆で分け合うという人間の本质にふれることができました。厳しい生活は続くかもしれませんが、未来に向けて、皆で力を合わせて進んでいくことでしょう。それにしてもゴミ捨て場では日本では得られない貴重な体験をしました。
(募金グループ 伊藤久平)



センター長(右から2番目)やセンタースタッフと(中央が伊藤)

スポンサーからのクリスマスカードをもって喜ぶマニレン。



フィリピンの子どもたちに スポンサーを紹介してください

この号で紹介したセンターをはじめ、フィリピンでは 300 名の子どもたちが支援を待っています。この子どもたちが健康で、勉強を続けるために、お知り合いの方をどうぞご紹介ください。あるいはもう一人、チャイルドをご支援くださいませんか。同封のチラシにご記入の上、ご返送ください。

センター長、フェルナンドさんから

「私たちのセンターは活動を始めてまだ 2 年の若いセンターです。スポンサーの皆様のご支援で現在 100 名のチャイルドたちが学校に通っています。しかし、ゴミ捨て場で生活している家族がまだ多くいます。この家族の子どもたちや、他の極めて貧しい家庭の子どもたちにどうかスポンサーを見つけてください。

この地域には小学校、ハイスクールが 3 校ありますが、どの学校でも貧困のため学校へ来られなくなる子どもたちがいます。

子どもたちや家族がゴミ捨て場や貧困から抜け出す唯一の道は教育です。皆様からの支援は子どもたちの人生に確かな変化をもたらします。子どもたちの未来のために、どうぞお知り合いの方々に紹介ください」

フェルナンド・ブエンサリーダ
(センター 51 センター長) *Fernando Q. Buenafelita*



ゴミを拾う、支援を待つ子ども

スリランカから vol.2 アーユボーン



アーユボーン：シンハラ語で「こんにちは」

待ちに待ったお正月

SUBHA ALUTH AVURUDDAK WEWA! スブハ アルス アブルダック ウェワ! (明けましておめでとう!)



センターの新年イベントの目玉、仮装コンテスト。手相占い師(前列左)や少数民族ヴェッタ族(前列右)の衣装を披露しました!

スリランカのお正月は 4 月 13 ~ 14 日前後。毎年、太陽の位置が魚座から牡羊座に移る時と決められているからです。1 月 1 日もお祝いはしますが、伝統的に盛大に祝うのは 4 月です。スリランカのお正月は特定の宗教や民族に限定された行事ではなく、全ての人々が祝う国民的なお祭りです。厳しい生活を送るチャイルドの家庭でも、お正月だけは特別。この日のために用意した新しい服を着て、家族そろってごちそうを食べ、親戚の家々を訪問します。ココナツミルクで炊いたご飯、米の粉や小麦粉から作る揚げ菓子など、お母さんたちは腕をふるいます。とても興味深いのは、「年明けの時刻」「台所のかまどに火をつける時刻」「最初の食事をする時刻」「親族を訪問する時刻」「神様の恵みを祈願して頭に聖油を塗る時刻」「仕事始めの時刻」など新年の行事一つ一つの時刻を占星術師が決めること。縁起のよい時刻は毎年違うのだそうです。

チャイルド・ファンド・ジャパンが支援するセンターでも、歌唱コンテスト、球技、綱引きなど新年を祝うイベントが盛りだくさん。子どもも大人も一緒に楽しいひとときを過ごし、一年の健康と幸せを願います。

ネパール「栄養改善事業」終了のお知らせ



ネパール

- 【ネパール】
 - ▶ 保健行政システムのキャパシティ・ビルディングによるネパールの女性と子どもの栄養改善計画
 - ▶ オカルドゥンガ地域病院事業
- 【フィリピン】
 - ▶ パラワン族生活改善プロジェクト

- 協力期間：2000年7月中旬～2008年7月中旬（ネパール暦2057年から2064年）
- 支援対象：ネパールの貧困層、特に女性と5歳未満の乳幼児
- 協力団体：NPCS* (Nutrition Promotion and Consultancy Service)

*ネパールのNGO。社会的弱者や貧困層の栄養改善をはかるため、地域住民への保健教育やNGOスタッフ、行政官への栄養研修を実施する。

ネパールの5歳未満児の深刻な発育障害を改善するために、皆様からのご支援により実施してきた栄養改善事業が2008年7月をもって終了しました。

この事業では、全国レベルの活動として、栄養教材の開発、栄養事業実施団体の職員研修や政策提言を行い、また、郡レベル（4郡の15ヶ村）の活動として、地域で入手可能な食材から摂れる栄養を中心とした栄養教育を通じて子どもと母親自身の栄養改善を図る「食生活改善アプローチ（Food Based Approach以降FBAと記す）」という働きかけを行いました。

2004年度までの第1期の事業評価では、このFBAの有効性が確認されましたが、一方で、事業スタッフが各村をまわって直接母親に働きかけるこの方法では、栄養不良に苦しむ子どもを持つ多くの母親たちに働きかけ普及していくには限界があることも指摘されました。

この評価を受けて、チャイルド・ファンド・ジャパンは、NPCSと協働して、2005年度以降も、新たな地域を対象に、栄養改善事業を第2期として進めるとともに、2006年10月からは、FBAを、より早く、より多くの母親に伝えるために、ネパール保健省ならびにJICA

（国際協力機構）と連携して、「保健行政システムのキャパシティ・ビルディングによるネパールの女性と子どもの栄養改善計画」*という新たな事業を展開しています。

第二期「栄養改善事業」についての最終評価結果は、年次報告書などで改めてご報告いたします。栄養改善事業は終了しましたが、皆様のご支援を受けて8年間続けられた事業は、新たな事業展開に繋がっています。

（ネパール事務所所長 田中真理子）



第2期最終評価フィールド調査（ダーティン郡）

*栄養改善事業を引き継ぐ形で展開したこちらの事業は、現在も実施中です。募金のご協力をよろしくお願ひいたします。

パラワン族生活改善プロジェクト

事業終了まで半年を残して～パラワン族の人たちの今～



フィリピン

- 協力期間：2003年6月1日～2009年5月31日
- 支援対象：パラワン州ブルックスポイント町に住むパラワン族300世帯
- 協力団体：AMP-IPM* (Augustinian Missionaries of the Philippines Indigenous Peoples Mission)

*フィリピンの修道会で、社会福祉活動を担う使徒会の一つ。少数民族パラワン族の文化継承、保健・栄養改善、教育活動、環境保護活動を行う。

夏募金でご紹介した保健ボランティアのバシアノさんのように、プロジェクトの研修を受けて、保健活動や識字教育、子どもたちに伝統文化を伝えていく活動などを進める知識と技術を備えた32人の住民が活動を支えるようになっています。

プロジェクトで設置した給水設備を管理するための体制作りが課題でしたが、人々はまだまだ経済的に厳しい状況にありながらも、毎月の修繕積立金を引き上げ、安全な水を、より多くの人が長きにわたり享受するための努力を続けています。集金や修繕費の支払いなどの会計業務も、当初はプロジェクト・スタッフが担っていましたが、住民が設立した管理委員会の会計担当者の力が備わり、自力で担う準備が進んでいます。さらに、この給水設備の維持管理や拡張のための費用を、町の予算に盛り込んでもらえるよう、行政との交渉も進めています。

また、地域の問題を協力して解決していく体制も定着してきています。現在、ニッケル鉱石を求める企業の一部が、採掘許可が下りないまま採掘を進め、採掘された鉱石を警察が押収するなどの対立が生じています。自然環境と鉱物資源という、共にパラワン族の豊かな恵みを守るために、パラワン族の人々の中からも、7人が町長の任命を受ける形で地域のパトロールに

参加しています。

パラワンの人々が、半年後の事業終了日を新たな門出の日として、自信を持って迎えることができるよう、残り半年にかけた取組みを見守ってくださいますようお願いいたします。



識字教室に赤ん坊を連れて参加する母親

インフォメーション コーナー

重要 「寄附金控除に関するご連絡」

先日、別途書面でお知らせしましたとおり、2009年4月1日付で「認定NPO法人」として国税庁長官より認定されました。4月1日以降にご送金いただいた寄附につきましては、寄附金控除の対象となりますが、3月31日以前につきましては対象外となります。ご不明な点がございましたら、**会計・庶務グループ**までご連絡ください。(03-3399-8123 平日9:30~17:30)

お願い 書き損じハガキで学校を贈ってください

今年はネパールのマホタリ郡における、学校建設を含む教育事業* (予算300万円)に皆様のハガキや切手を活用します。ハガキ1枚で校舎を建てるためのレンガ5個、あるいはノート2冊になります。雨が降ったら授業ができない青空教室で学ぶ子どもたちに校舎を贈ってください。

*この事業は、地域の人々が事業計画段階から参加する学校建設事業で、校舎完成後も人々と学校が協力し、よりよい教育が子どもたちに提供できるようになることを推進します。校舎の完成により子どもたちが安心して授業を受けることができるようになり、中途退学する子どもの数が減ることが期待されます。



お知らせ 新しいパンフレットをご活用ください

チャイルド・ファンド・ジャパンのパンフレットが新しくなりました。成長したチャイルドのストーリーや、スポンサーシップ・プログラムが分かりやすく掲載されています。お知り合いに渡して、ぜひ活動を広めてください。ご希望の方は事務局までお知らせください。

お知らせ スポンサーシップ紹介のDVD(16分)、できました!



ハロハロのページ(2ページ)でご紹介しているスポンサーシップ・プログラム紹介のDVDをご希望の方にお送りします。ぜひご家庭・ご友人の皆さまでご覧いただき、支援の輪を広げてください!ご希望の方は、送料・梱包量として200円分の切手を事務局 DVD係までお送りください。

※貸出もします(無料、ただし返送の際の送料(普通郵便で140円程度)はご負担ください)。お申込み・お問合せは支援者サービスグループDVD係まで。



このような校舎が建設されます



教室を待っている子どもたち

感謝 学校で展示をしてくださいました

昨秋、スポンサーとしてチャイルドを支援して下さっている福山暁の星幼稚園保護者会、秋草学園福祉教育専門学校、明治学院東村山高等学校2年、東洋英和女学院中高部YWCA、普連土学園国際親善委員会の皆さんが、支援活動を広く知ってもらおうと学内で展示をしてくださいました。また札幌市立陵北中学校では、パネルの展示をとおして寄附を募り、新たにフィリピンのチャイルドへの支援を開始してくださいました。

*パネルの貸し出しをご希望の方は、お気軽に支援者サービスグループまでどうぞ。



東洋英和女学院中高部YWCA



普連土学園国際親善委員会

報告 チャリティゴルフ大会、今回も盛況でした



表彰式の様子。右が篠塚和典さん。

2008年12月4日、読売巨人軍コーチの篠塚和典さん主催の第4回スマイリング・パートナーズチャリティゴルフ大会が開かれました。

当日は246名の方々にご参加いただき、プレー後のチャリティオークションでも長嶋茂雄さんはじめ多くの方のご協力をいただきました。このイベントによるご寄附は、フィリピンのチャイルド20名の支援継続とネパールの支援プロジェクトに活用されます。

お願い 『冬募金』 目標に届いていません

2008年12月から実施しているネパールの女性と子どもの栄養改善をめざした募金キャンペーンへの募金、計1,251口8,823,597円(2009年3月26日現在)が寄せられました。昨年からの不況による厳しい状況の中、多くの方々からご協力いただき感謝を申し上げます。

しかしながら、目標金額の1,200万円に届いておりません。引き続きご支援をよろしくお願いいたします。



地域で母親たちに栄養指導をするスタッフ(右)

ChildFund Japan

Vision Mission

チャイルド・ファンド・ジャパンはここに掲げるビジョン(目標)、ミッション(使命)に基づいて活動します。

ビジョン(目標)

すべての子どもに開かれた未来を約束する国際社会の形成

ミッション(使命)

生かし生かされる国際協力を通じて子どもの権利を守る

スマイルズ <チャイルド・ファンドだより SMILES> 2009年4月発行

〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-17-5
特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン
理事長 深町正信(青山学院名誉院長) 事務局長 小林毅
TEL: 03-3399-8123 FAX: 03-3399-0730
E-mail: childfund@childfund.or.jp URL: http://www.childfund.or.jp/

デザイン:モスデザイン研究所 印刷:有限会社東西印刷

チャイルド・ファンド・アライアンス ChildFund Alliance

人種、宗教、性別、国籍を問わず世界の子どもたちに、効果的な支援活動をするためのネットワークで、子どもたちに向けたスポンサーシップ・プログラムを行う12団体から構成されています。チャイルド・ファンド・ジャパンは2005年4月に加盟しました。